K3600 MKII

取扱説明書

本機をご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

シンボルマークの意味

警告！本機は正しく慎重に扱わない場合危険な道具となり、使用者やその他の人が重傷または致命傷を負う原因となることがあります。

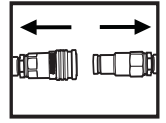
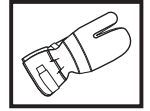
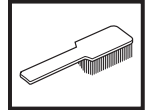
本機をご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

常に以下のものを着用してください。

- 承認された保護ヘルメット
- 承認されたイヤマフ
- 承認された保護メガネまたはバイザー

この製品は EC 指令に準拠しています。

その他のシンボルやステッカーなどは、地域固有の各種基準に対応したものです。

本機の点検やメンテナンスを行なう際は、必ず事前に油圧ホースを取り外してください。

承認された保護手袋を必ず着用してください。

定期的な清掃が必要です。

目視点検。

保護メガネまたはバイザーを必ず着用してください。

目次

パワーカッターの各部名称

1 ダイヤモンドブレード

2 ブレードガード/スプレーガード

3 油圧モーター

4 駆動ホイールのロックボタン

5 グリースニップル

6 ガイドローラー制御

7 前ハンドル(調節可能)

8 水量調節つまみ

9 スイッチ

10 水道接続

11 油圧ホース継手

12 銘板

13 ウォーターディスク

14 サポートローラー

15 ガイドローラー

16 駆動ホイール

17 スイッチロックおよびウォーターバルブ ON/OFF

18 カバーネジ

19 サポートローラーのロックナット

20 調節ネジ

21 前ハンドルのスイッチロック

22 工具バッグ

23 軸受グリース

24 コンビレンチ

25 19 mm コンビレンチ

26 4 mm 六角レンチ

27 5 mm 六角レンチ

28 6 mm 六角レンチ

29 グリースガン

30 取扱説明書

パワーカッターを初めてお使いになる前に

- 本機は油圧駆動の携帯型パワーカッターです。オイル流量が 35～42 リットル/分で最大圧力が 150 バールの油圧ユニットに接続して使用します。
- 本書をよくお読みください。
- カッティングブレードの取付状態を確認します。「取付」を参照してください。

最寄の Partner 販売店にパワーカッターの点検を依頼し、基本的な調節や修理を行ってください。

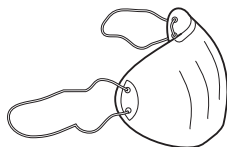
警告！いかなる理由であれ、製造元の了承を得ることなく本機の設計に変更を加えないでください。常に純正の部品をお使いください。不認可の変更や付属品は、使用者やその他の人の重傷や致命傷の原因となることがあります。

警告！切削、研磨、ドリル、ヤスリかけ、および形成などに使用する製品は、有害物質を含む粉塵や蒸気を発生させることがあります。加工対象となる素材の性質を熟知し、適正な防塵マスクや呼吸用保護具を使用してください。

身体保護具

警告！本機を使用する際は、承認を受けた身体保護具を必ず着用してください。身体保護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具の選択については、最寄の販売店にご相談ください。

- 保護ヘルメット
- イヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー

- 防塵マスク

- しっかりと掴むことのできる丈夫な手袋。

- 身体に沿って動きが楽な、丈夫で快適な衣服。

- 切削対象となる素材に対応したすね当て。
- 底が滑り止め仕様のスチールトウの靴。

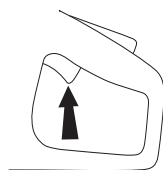
- 常に救急箱を手元に用意。

パワーカッターの安全装置

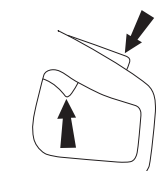
このセクションでは、本機の安全装置とその目的、および安全装置の機能を維持するための点検とメンテナンス方法について説明しています。安全装置の配置については「各部名称」を参照してください。

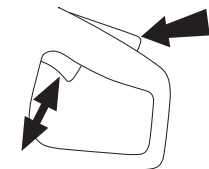
警告！安全装置に欠陥のあるパワーカッターは決して使用しないでください！このセクションの説明にしたがって点検、メンテナンス、およびサービスを定期的に行なってください。

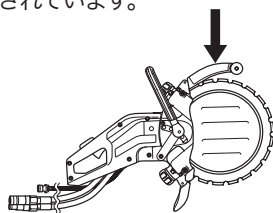
スイッチ

スイッチは本機の始動と停止に使用します。

スイッチロックおよびウォーターバルブ ON/OFF

スイッチロックは、スイッチの操作ミス防止のために設計されています。ウォーターバルブON/OFFも、スイッチロックが制御します。

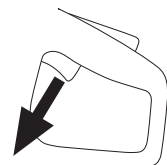
スイッチロック（A）を押し込むとウォーターバルブが開き、スイッチ（B）が解放されます。スイッチを押し続ける限りスイッチロックも押し込まれた状態を保ち、ウォーターバルブも開いています。

ハンドルから手を放すと、スイッチおよびスイッチロックともに元の位置に戻ります。この動きは、2つの独立したリターンスプリングシステムが制御しています。スイッチが元の位置に戻ると本機は停止し、スイッチがロックされます。

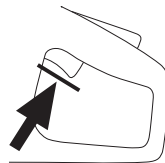
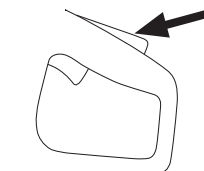
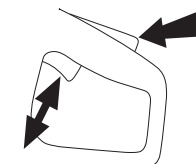
ハンドルから手を放すと、ウォーターバルブも閉位置に戻ります。

ブレードガード

このガードはブレードの上に取り付けられ、ブレードの一部や切削物破片が使用者の方に飛んで来ないようにデザインされています。

パワーカッター安全装置の点検・メンテナンス・サービス

警告！本機のサービスや修理はいずれも、特別な教育を必要とします。特に安全装置にはこのことが該当します。お持ちのパワーカッターの安全装置が下のチェック項目の一点でも満たさない場合は、必ず最寄のサービス代理店にご連絡ください。弊社では、製品お買い上げの際に、専門家による修理とサービスを保証しています。お買い上げになった販売店がサービス販売店でない場合は、その販売店に最寄のサービス代理店の所在地をお問い合わせください。

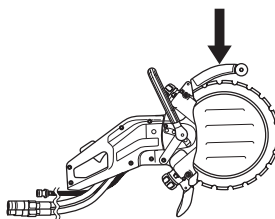
スイッチの始動・停止機能の点検

本機を始動してスイッチを放し、直ちに本機とカッティングブレードが停止することを確認します。

スイッチロックの点検

スイッチロックが元の位置にあるときはスイッチがロックされていることを確認します。

スイッチロックを押し込んでから放し、元の位置に戻ることを確認します。

スイッチとスイッチロックがスムーズに動作し、それぞれのリターンスプリングが正しく機能していることを確認します。

本機を始動してスイッチを放し、直ちに本機とカッティングブレードが停止することを確認します。

ブレードガードの点検

警告！本機を始動する前に、ガードが正しく固定されていることを必ず確認してください。ブレードが正しく固定され、損傷がないことも確認してください。ブレードに損傷があると、負傷の原因となることがあります。「取付」の説明を参照してください。

ブレードに欠けている箇所がなく、亀裂や変形がないことを確認します。

安全に関する予備知識

- パワーカッターは、石造物のような硬い材質の物の切削用に設計されています。軟らかい材質の物を切削する際は、キックバックが起こりやすくなることにご注意ください。「キックバックの避け方」参照。
- 本書を完全に読み終わるまで、パワーカッターを使用しないでください。
  「パワーカッターの安全装置の点検・メンテナンス・サービス」に記載された項目ばかりでなく、全てのサービスは教育を受けたサービスの専門家が行なうようにしてください。

- 疲労時や飲酒後、または視覚や判断力、反射神経に影響を与えるような薬剤の服用中は、絶対に本機を使用しないでください。
- 身体保護具を着用してください。詳細は「身体保護具」を参照してください。
- オリジナルの仕様を変更したパワーカッターは、それがどのような変更であっても絶対に使用しないでください。
- 欠陥のあるパワーカッターは絶対に使用しないでください。本書の内容に従って、点検、メンテナンス、およびサービスを行なってください。メンテナンスやサービスの内容によっては、教育を受け資格を持った専門家でなければできないものもあります。詳細は「メンテナンス」を参照してください。
- 他人の使用を許可する場合は、その人が本書の内容を理解したことを必ず最初に確認してください。

搬送と保管

ブレードを取り付けたまま、パワーカッターを搬送したり保管したりしないでください。

パワーカッターは鍵がかけられる場所に保管し、子どもや関係者以外の人が近づけないようにしてください。

使用後はブレードを取り外し、丁寧に保管してください。ブレードは乾燥した場所で保管してください。

一般的な作業方法

警告！このセクションでは、パワーカッターの基本的な安全注意事項について説明しています。しかし、ここに記載されている事項は、技術と経験をもつ専門家の知識にかなうものではありません。判断に迷う状況に遭遇した場合は作業を中断し、専門家のアドバイスを受けてください。最寄の販売店、サービス代理店または経験豊富なパワーカッター使用者などに連絡をとります。確信を持てない作業は行なわないでください！

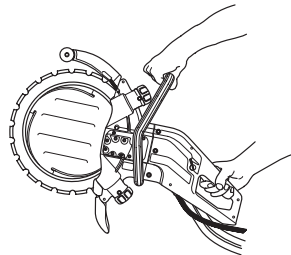
安全に関する基本的規則

- 周囲を見渡してください。
  - 近くの人や動物、または他の物がパワーカッターの操作に影響しないことを確認します。
  - また、これらの周囲のものがカッティング装置と接触しないことを確認します。
- 濃霧、降雨、強風、極寒などの悪天候下ではパワーカッターを使用しないでください。悪天候下での作業は疲れやすく、地面が滑りやすくなるなど危険な条件にもつながります。
- パワーカッターを使って作業を開始するのは、必ず作業場が整い安定した足場が準備できてからにしてください。予期せぬ動きをしそうな障害物に注意してください。切削中に切削対象物が動きやすくなり落下することのないようにしてください。労働災害の原因になることがあります。傾斜地で作業をするときは、十分な注意が必要です。
- 回転するカッティング装置に、衣服や身体がたとえ一部でも接触しないよう注意してください。
- カッティング装置の回転中は、カッティング装置から安全な距離を保ちます。
- 必ずブレードガードを取り付けた状態で本機を使用してください。
- 作業エリアの照明が十分で安全な作業環境になっていることを確認します。
- カッティング装置の回転中はパワーカッターを移動しないでください。
- 常に安全で安定した体勢を保つようにしてください。
- 切削箇所にパイプや電気ケーブルなどがないか、確認します。

切削

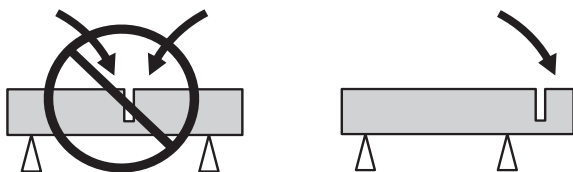
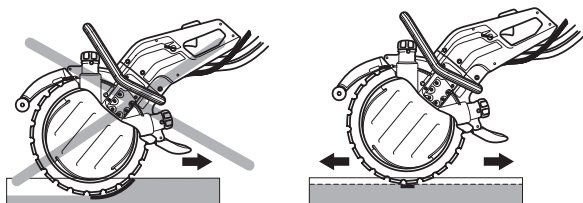
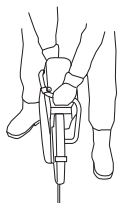
警告！パワーカッターの安全距離は**15**メートルです。作業エリアに動物や関係者以外の人がいないことを、責任を持って確認してください。作業エリアが整い、安定した足場が用意できるまで、切削作業を開始しないでください。

基本

- エンジンをフルスロットルにして切削を開始します。
- 常に両手でパワーカッターをしっかりつかみます。親指をかけすべての指でしっかりとハンドルを握ります。

警告！循環器系に障害のある人が振動を長期間受け続けると、循環器障害や神経障害を起こすことがあります。振動が原因と思われる症状が出たときは、医師に相談してください。症状にはしびれ、感覚まひ、うずき、ちくちくする痛み、刺すような痛み、力が入らない、皮膚の色や状態の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手の甲、手首に現れます。

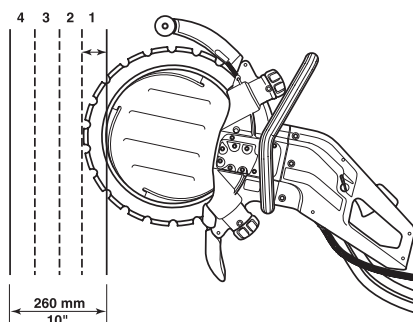
切削のテクニック

ここで説明しているテクニックは一般的なものです。ブレードのタイプに固有の特徴については、各ブレードに関する詳細を参照してください。

- 切削対象物は次に起こることが予測できるような方法で、しかも切削中に切り目が閉じないように支えます。

- パワーカッターを始動する際、ブレードが何か他の物に触れないことを確認してください。
- 常にフルスロットルで切ってください。
- ブレードを無理に進めたり押し付けたりせず、パワーカッターが自然に進むのに任せて滑らかに切り始めます。
- ブレードをゆっくり前後に動かして、ブレードと切削対象物との接触面が小さくなるようにしてください。こうするとブレードの温度が低く抑えられ、より効率的に切削できます。

- パワーカッター本体とブレードが一直線になるようにしてください。側面から圧力がかかるとブレード破損の原因となり、たいへん危険です。

警告！ブレード側面による切削はいかなる状況においても避けてください。損傷や破損が発生し、重傷の原因となります。カッティングブレードのカッティングゾーンのみを使用して切削してください。

パワーカッターを一方へ引き寄せないでください。こうするとブレードが挟まれたり破損したりし、負傷の原因となることがあります。

切削の深さ

K3600 MKII は深さ260 mm（10インチ）までの切削が可能です。まず、深さが50～70 mmの切り目をガイドとして入れると、パワーカッターを制御しやすくなります。つまり、ウォーターディスクが切削対象物に入り込み、パワーカッターの制御を補助します。一回で切り終わろうとすると、より時間がかかります。切削の深さが260 mm（10インチ）に及ぶときは、3～4回に分けて切った方が結果的に早く切り終わります。

大型のものを切るとき

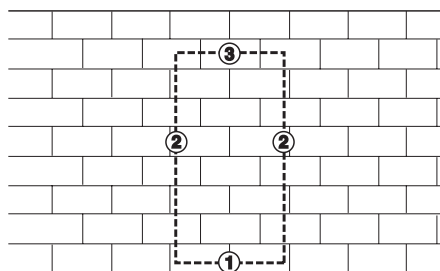
1 mを超えるものを切る場合 - 切削ラインに沿って当て木をあてがってください。当て木がガイドの役割をします。この当て木に沿って、ガイドとなる深さ50-70 mm（2～3インチ）の切り込みを、切ろうとする長さ全体に入れます。ガイドとなる切り込みを入れたら、当て木を取り外します。

小型のものを切るとき

まず、深さが最大でも50～70 mm（2～3インチ）の、ガイドとなる浅い切り込みを入れます。次に、最終的に切ります。

切削の順序

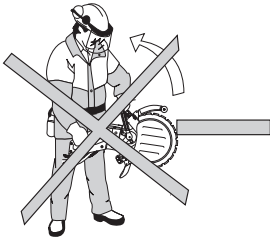
まず、底辺にあたる水平線を切ります。次に、両側の垂直線を切ります。最後に、上辺にあたる水平線を切ります。

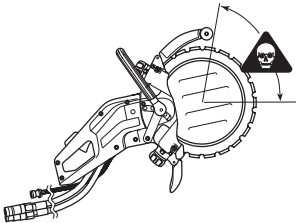
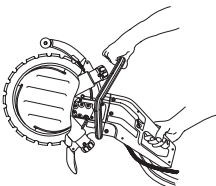
撤去の際に安全に搬送できるよう、取り扱い可能な大きさに切断するようにしてください。

注意！底辺を切る前に上辺を切ってしまうと、底辺を切っている途中で切削対象物が落下し、ブレードが挟まれてしまいます。

キックバックの避け方

警告!キックバックは突然強い力で起こり、パワーカッターとカッティングブレードが使用者に向かってはじき返されます。カッティングブレードの回転中にキックバックが発生した場合、非常な重傷やさらには致命傷の原因となることがあります。キックバックが起こる理由を理解し、正しい技術と慎重な作業で発生を避けることが非常に重要です。

キックバックとは何か

キックバックという言葉は、カッティングブレードの上側4分の1の部分(キックバックゾーン)が切削対象物に触れた際に、パワーカッター本体とカッティングブレードが切削対象物に突然はじき返される現象を説明するときに使用されます。

基本的な規則

- 図で示す上側4分の1の部分、つまりキックバックゾーンでは、絶対に切り始めないでください。

- 常に両手でパワーカッターをしっかりつかみます。親指をかけすべての指でしっかりとハンドルを握ります。

- 体のバランスを保ち、安定した足場を確保してください。
- 常にフルスロットルで切ってください。
- 切削対象物から適度な距離に立ちます。
- 既に切り目が入っている箇所にブレードを差し込む際は、注意してください。
- 肩より高い位置では絶対に切らないでください。
- 切り目が閉じてブレードが挟まれることのないよう、切削対象物の動きやその他の状況に注意を払ってください。

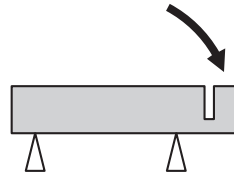
プルイン

プルインはディスクの下部が突然停止したり切り目が閉じたりしたときに発生します。(プルインを避けるには、「基本的な規則」と下記の「挟み込み/回転」を参照してください。)

挟み込み/回転

力がかかって切り目が閉じてしまうと、挟み込みが発生します。この場合、非常に強い力で突然パワーカッターが引きずり込まれます。

挟み込みの避け方

切削作業中および終了後に切り目が閉じないような方法で切削対象物を支えます。

ダイヤモンドブレード

ダイヤモンドブレードは、スチール製の本体と工業用ダイヤモンドを含んだセグメントで構成されています。

常に鋭利なダイヤモンドブレードを使用してください。砂岩やレンガなど、軟らかい材質のものを切って目立てしてください。

ダイヤモンドブレードには、数種類の硬さ等級があります。“軟らかい”ダイヤモンドブレードは耐用期間が比較的短い代わりに、切削能力が大きくなります。このタイプは花崗岩や強化コンクリートなど、硬い材質のものに使用します。“硬い”ダイヤモンドブレードは耐用年数は長くなりますが切削能力は劣り、レンガやアスファルトなど軟らかい材質のものに使用します。

ダイヤモンドブレードは石造物や強化コンクリート、およびその他の合成材に適しています。金属の切削にはおすすめしません。

水冷

警告!ダイヤモンドブレードは常に水で冷却し、過熱状態にならないようします。過熱状態になるとブレードが破損し、飛び散った破片が負傷や損害の原因となることがあります。

切削中はブレードを冷却するため、および粉塵を抑えるために、ブレードに水をかけてください。

ダイヤモンドブレードの目立て

送り圧が適切でなかったり、超強化コンクリートなどある種の材質のものを切ると、ダイヤモンドブレードの切れが鈍くなることがあります。切れないブレードを使うと過熱状態になり、セグメントが欠ける原因となります。

砂岩やレンガなど、軟らかい材質のものを切って目立てしてください。

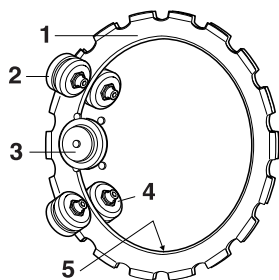
ダイヤモンドブレードの振動

送り圧力が大きすぎると、ブレードに狂いが出て振動することがあります。

送り圧力を下げると、振動はなくなります。それでも振動する場合はブレードを交換してください。ブレードは切削しようとする材質に適したものを使用してください。

駆動原理

本機はその独自の設計により、駆動力がブレード中心に伝動されないようになっています。2つのガイドローラーのフランジが、ブレードの溝に沿って走行します。ガイドローラーのバネがローラーを押し出すようにし、それがブレード内径のV形エッジを駆動ホイールのV形溝に押し付ける働きをします。駆動ホイールは、油圧モーターによって駆動される駆動軸に取り付けられています。

このため、350 mm（14インチ）のダイヤモンドブレードで260 mm（10インチ）という切削の深さが可能になっています。

1 ブレード

2 サポートローラー

3 駆動ホイール

4 ガイドローラー

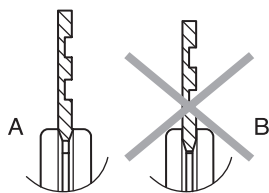
5 V形エッジ

基本的な点検

ブレードは使用するにつれ、内径と駆動ホイールの溝が摩耗してきます。

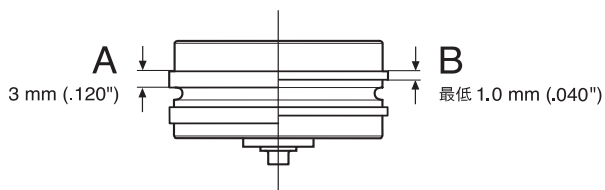
リングカッターは、下記の条件下で引き続き良好に機能します。

- 駆動ホイールの摩耗があまり進んでいない場合

  A) 新品

  B) 摩耗した状態

- ガイドローラーの摩耗があまり進んでいない場合

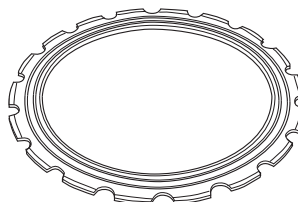
  A) 新品

  B) 摩耗した状態

- ローラーとブレードとの間の調節が正しい場合

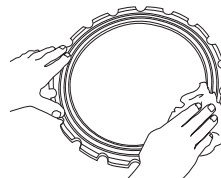
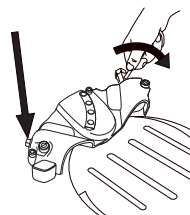
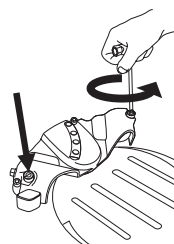
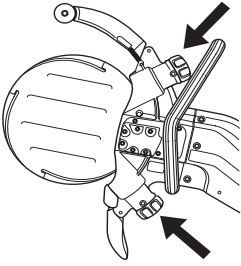
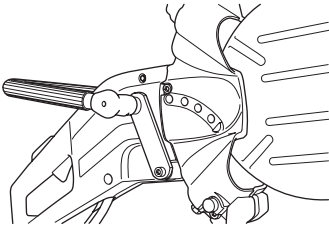
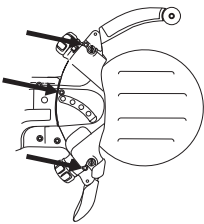
ローラーの設定は、ダイヤモンドブレードの耐用期間中、2回点検してください。1回目はブレードの取付後、2回目はブレードの摩耗が半分ほど進んだときです。

ブレードの取付

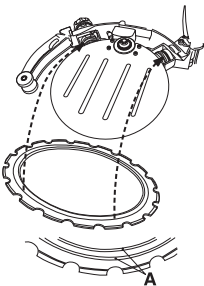
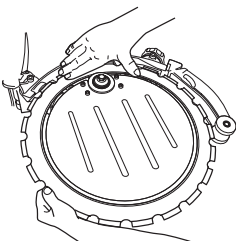
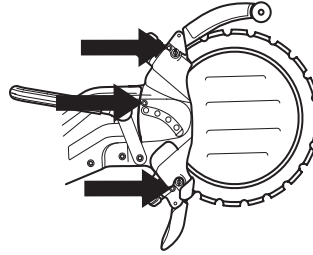
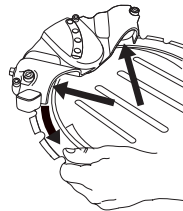
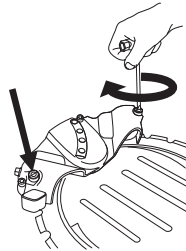
警告！点検を行なう際は、必ずパワーカッターの油圧接続を切ってください。予期せずブレードが回転すると、重傷の原因となることがあります。

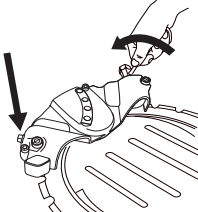
ブレードは、異なる材質に応じて複数のタイプをご用意しています。用途に最適なブレードの選択に関しては、最寄のPARTNER販売店にご相談ください。

警告！中古ブレードの修復は禁止されています。中古のブレードは構造的に弱くなっているかもしれません。また、修復したブレードは亀裂が入ったり破砕したりする危険性があり、使用者やその他の人が重傷を負う原因となることがあります。

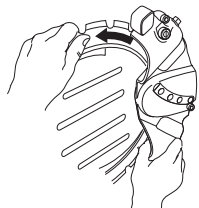
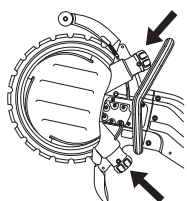
警告！ブレードを本体に取り付ける前に、ブレードに損傷がないことを確認してください。損傷のあるブレードは破砕する危険性があり、重傷の原因となることがあります。

- ブレードの表面についている汚れを拭き取ります。

- サポートローラーカバーのロックナットを取り外します。

- 調節ネジを数回転分ゆるめます。

- ノブを緩めて、バネの張力を逃がします。

- 前ハンドルのロックを引き出し、ハンドルを点検用の位置に倒します。

- サポートローラーガードを固定している3本のネジを6 mmの六角レンチで取り外し、カバーを取り外します。

- ブレードを取り付けます。

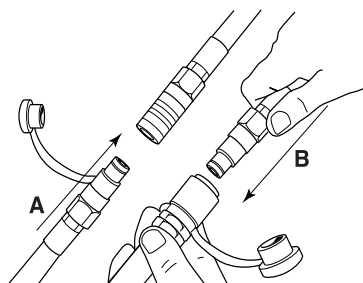
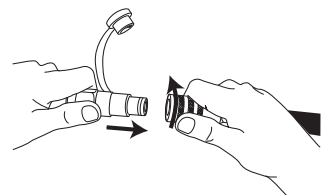
  注意！ブレードの片面には2本の溝（A）があり、ガイドローラーのガイド溝としての役割を果たしています。

  ブレードのV形エッジが駆動ホイールにしっかりと入り、ブレードのガイド溝がガイドローラーにフィットしていることを確認してください。「駆動原理」も参照してください。

- ガイドローラーがブレードの溝に入り込むよう、必要に応じてガイドローラーを押し込みます。

- サポートローラーガードを取り付け、ガイドローラーのフランジがブレードの溝に正しく入っていることを確認します。3本のネジを締め込みます。

- ブレードを回してみて、ブレードへのサポートローラーの当たりが強すぎないことを確認します。

- 調節ネジでサポートローラーがブレードと接触するようにします。

- ブレードの回転中にサポートローラーを親指で軽く押さえると止められる程度に調節してください。サポートローラーは、ブレードの回転に伴ってときおり回転する程度で十分です。

- サポートローラーガードのロックナットを締め込みます。

- ブレードを回し、回転中にサポートローラーを親指で止められるかどうか、再び確認します。

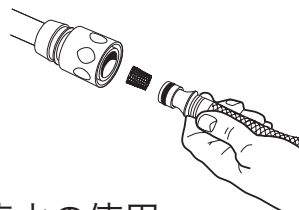
注意！パワーカッターは真っ直ぐ立ててください。カッターを横に寝かせると、ブレードの重みで正しい調節が難しくなります。

- ノブを締め込むと、使用準備完了です。

油圧ホース

警告！油圧が**150**バール（**3000 psi**）を上回る場合は、絶対にパワーカッターを接続しないでください。

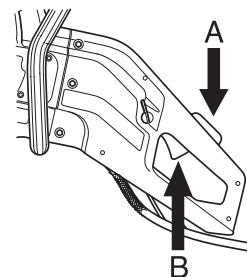
- ホースを接続する前に：パワーカッター側、ホース側ともに、継手に汚れがないことを確認します。
- 圧力ホース（A）を油圧システムから本機のメス継手に接続します。
- もう一方の油圧継手（B）をオス継手に接続します。このホースは、オイルをタンクへ戻すためのものです。

注意！ホースの長さが 18 m 以上必要な場合は、ホースキットを2個まで使用することができます。継手部分でのパワー損失が大きいため、キットは3個以上使用しないでください。詳細は主要諸元を参照してください。

注意！本機を使用する前に継手のロックを回して固定し、予期に反してホースが外れることのないようにしてください。

警告！本機の使用中は、ホースに非常に大きな圧力がかかります。油圧システム稼動中におけるホースの接続や取外しはお止めください。重傷につながることがあります。

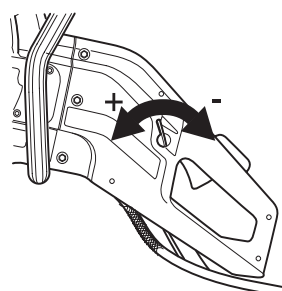
水道ホース

水道ホースを給水源につなぎます。逆止め弁を開けると水を使用する準備ができます。最低流水量は4リットル/分です。本機のホース接続口にはフィルターがあることにご注意ください。

流水の使用

スイッチロック（A）を押し込むと、ウォーターバルブが開きます。

スイッチ（B）を押し続ける限り、ウォーターバルブは開いた状態を保ち、スイッチロック（A）も押し込まれたままとなります。

水量の調節

本機の使用中、親指で水量を調節することができます。

ブレードの耐用期間を最大限にするには、十分な水量が必要です。

注意！ブレードの冷却と耐用期間という点において、水圧と水量は非常に重要です。冷却が不十分な場合、ガイドローラーや駆動ホイール、およびブレードの耐用期間が縮まります。

始動と停止

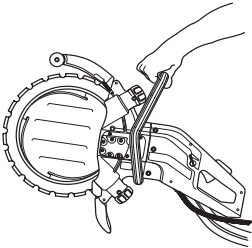
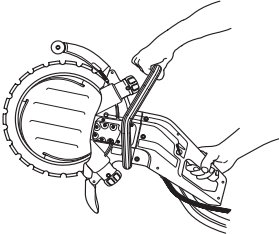
警告！始動に当たっては、下の注意点を守ってください。

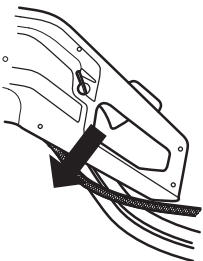
足元が安定していること、カッティングブレードが他のものと接触しないことを確認します。

作業エリアに関係者以外の人や動物がいないことを確認します。

動力源（油圧ユニット）から正しいオイル量と油圧が供給されていることを確認します。

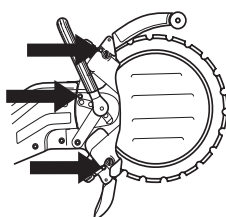
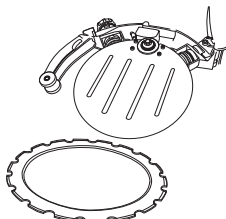
始動

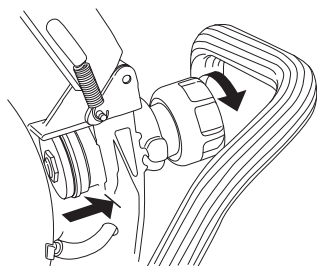
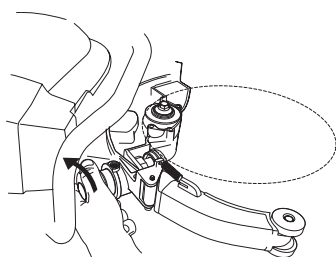
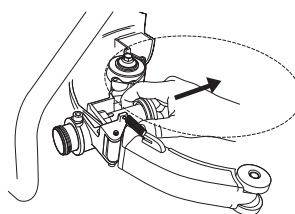
- 左手で前ハンドルを握ります。

- 右手で後ろハンドルを握ります。後ろハンドルを握ると、それがスイッチロックを解放することになります。

停止

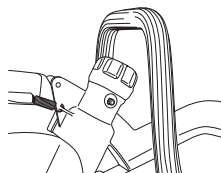
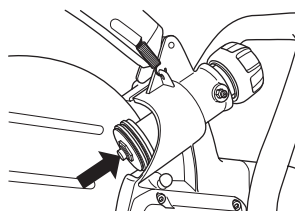
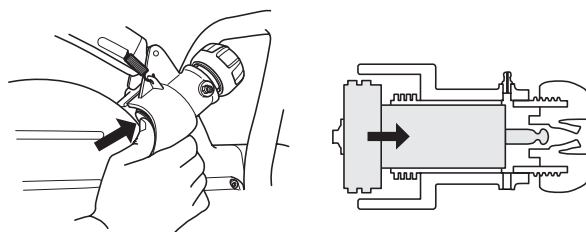
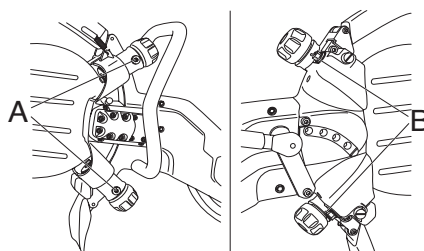
スイッチを放すと本機は停止します。

メンテナンス

警告！点検やメンテナンスは、油圧ホースを取り外して行なってください。

ガイドローラー全体の取外

- サポートローラーカバーを取り外します。

- ブレードを取り外します。

- ノブを緩めて取り外します。

  まず、抵抗を感じるところまでノブを数回転します。ガイドローラーがノブに伴って出てきて、抵抗があるところで止まります。

ガイドローラーをノブに押し込みます。ガイドローラーを取り外すには、ノブが外れるまでノブを回してください。

- これで、シャーシからガイドローラーを引き抜くことができます。

ガイドローラー全体の取付

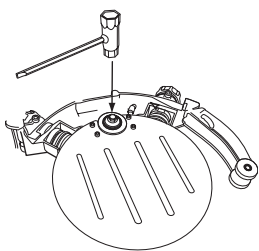
- 止まるところまでノブを締め込み、次に2回転分戻します。

- ガイドローラーをシャーシに挿入します。

- ガイドローラーをノブに押し込みます。

ガイドローラーのスリーブにグリースを塗布します。グリースガンをグリースニップル（A）に当て、きれいなグリースが穴（B）から溢れ出すまで注入します。

- ブレードを取り付けます。詳細は「ブレードの取付」を参照してください。

重要事項：

- サポートローラーはブレードを駆動しません。
- 不適正な調節はブレード損傷の原因となることがあります。
- ブレードがゆっくりとしか回転しない、または停止する場合は、直ちに切削作業を中止して問題を解消してください。

駆動ホイール

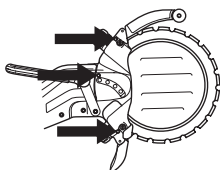
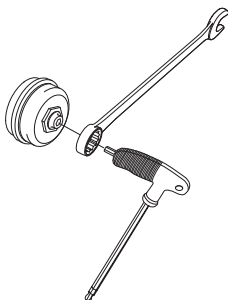
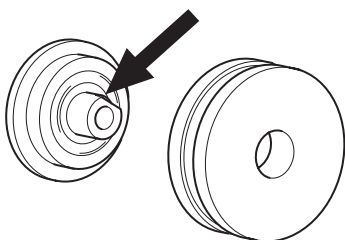
1 ロックボタンを使用して駆動軸を固定します。「各部名称」参照。

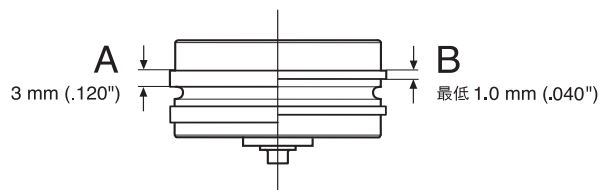
2 中央のネジを外し、ワッシャを取り外します。

3 これで、駆動ホイールを取り外すことができます。

注意！新品のブレードを取り付ける際は、駆動ホイールも交換してください。摩耗した駆動ホイールはブレードがスリップし損傷を受ける原因となります。

流水量が不十分な場合にも駆動ホイールの耐用年数が短くなります。

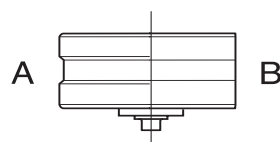
サポートローラー/ガイドローラーの交換

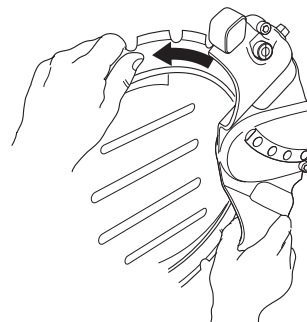
- サポートローラーカバーを取り外します。

- ローラーの摩耗状態を点検します。
- 19 mmのレンチと5 mmの六角レンチを使用して、ローラーを交換します。

新しいローラーを取り付ける前に、ローラーの内側に軸受グリースを塗布します。

- ローラーのフランジが約半分摩耗したら、ガイドローラーを交換してください。

  A) 新品

  B) 摩耗した状態

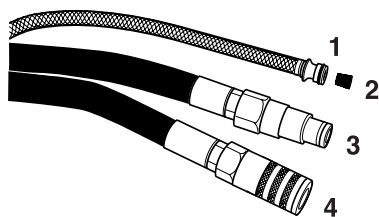
- ローラーの表面が平らになったら、またはローラー表面の溝が摩耗したらサポートローラーを交換してください。

  A) 新品

  B) 摩耗した状態

摩耗したローラーを交換したら、ブレードに対するローラーの当たり具合を調節してください。

詳細は「設定と調節」を参照してください。

ブレードの修復

警告！リングカッターのブレードは修復することができません。その設計により、リングカッターのブレードには、中心駆動の**14**インチダイヤモンドブレードならば受けない負担がかかります。まず、駆動ホイールをブレード内径で駆動することにより、駆動ホイール表面およびブレードの双方が摩耗にさらされる状態になっています。そのためブレードの芯が次第に薄くなってガイドの幅が広くなり、結果としてホイールによるブレードの駆動が妨げられることとなります。さらに、ブレードが完全に真っ直ぐになっていない場合、ブレードにはローラーによる負荷と実際の切削作業による負荷とがかかります。修復されたブレードである場合、ブレード内に負担が蓄積されると亀裂や破断につながります。破砕したブレードは、使用者やその他の人が重傷を負う原因となりかねません。このことから、**PARTNER**は修復されたリング状カッティングブレードを認めていません。ただし、個々のセグメントなら修復できる場合があります。詳細については最寄の**PARTNER**販売店にお問い合せください。

継手

1　水道ホース

2　水道フィルター

3　戻りオイル

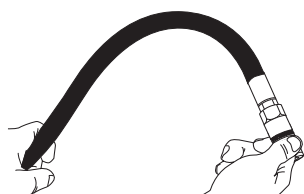
4　圧力

重要！継手が汚れていると汚れがオイルに侵入し、油圧モーターや油圧ポンプ、バルブなどの摩耗が必要以上に進行します。また、継手のシーリングも密閉性を失います。

油圧システムやパワーカッターに接続する前には、必ず継手をきれいに清掃してください。ロックがスムーズに動くことを確認します。

必要に応じて水道フィルターを清掃します。

油圧ホース

パワーカッターを使用する前に、油圧ホースを毎日点検してください。亀裂や折り目のあるホース、また弱くなったホースは交換してください。

メンテナンス表

注意！下表は、本機を毎日使用すると想定した場合のものです。

	毎日行うメンテナンス	週に**2**回行なうメンテナンス
サポートローラーとガイドローラー		
サポートローラーの摩耗具合を点検します。		X
ガイドローラーの摩耗具合を点検します。	X	
ガイドローラーに注油します。	X	
油圧システム		
油圧ホースを点検します。	X	
水道ホースのノズルを点検し清掃します。	X	
駆動システム		
駆動ホイールの状態を点検します。		X
ウォーターシステム		
ウォーターディスクのノズルを点検し清掃します。		X
水量調節つまみを点検します。		X
水道ホース継手のフィルターを点検します。		X
スイッチ類		
スイッチ類が正しく機能することを点検します。	X	
ブレード		
ブレードガードの状態を点検します。	X	
ウォーターディスクを点検します。		X

EN13236 準拠のブレード

Partner K3600 MKIIは、下記のブレードを使用した際にのみ98/37/ECおよびEN13236に適合します。

タイプ	直径、**mm**
Partner-Dimas	
PXR XXD	350
ELR XXD (5.6 / .220)	350
SLR XXD	350
R550D-0355 (5.6 mm)	350
R530D-0355	350
R510D-0355 (5.6 mm)	350

注記：ブレードは、材質の種類に対応して異なる硬さの物をご用意しています。硬さ等級は2桁の数字XXで示されています。

機構に関するトラブル

症状	考えられる原因
ブレードが回転しない。	ローラーノブが完全に締まっていない。
	ブレードがガイドローラーに正しく乗っていない。
	ローラーの圧力が大きすぎる。
	油圧システムへのホース接続が正しくない。
	動力源へのホース接続が誤っているか、その他油圧関係の問題。
ブレードの回転が遅い。	ローラーノブが完全に締まっていない。
	駆動ホイールの摩耗。
	ブレード内径のV形状が摩耗している。
	ガイドローラーのスプリングが弱くなっている。
	油圧システムの超過圧力バルブが汚れている。
	油圧モーターのバルブノブの移動距離が正しくない。
	ローラーベアリングの故障。
	オイル流量が不適切。油圧システムのオイル流量を点検。
ブレードが飛び出す。	ローラーの圧力が弱すぎる。
	ガイドローラーの摩耗。
	ブレードがガイドローラーに正しく乗っていない。
	ブレードの損傷。
ブレードが反る。	ローラーの圧力が大きすぎる。
	ブレードの過熱。
セグメントが破損する。	ブレードが曲がったりねじれたりしている、またはブレードのメンテナンス不良。
	セグメントの欠損が一箇所だけの場合は使用継続可。または、ブレードの摩耗度が50 %に達している場合修復を依頼。
ブレードの切削速度が遅い。	切削対象の材質に不適なブレードを使用している。
	ブレードにかかる水量が適切かどうか点検する。
ブレードがスリップする。	ガイドローラーが自由に出入りしていない。ローラーが固着しているため、ブレードを駆動ホイールに押し付ける力が弱くなっている。
	駆動ホイールの摩耗。研磨材の切削時に水量が少なすぎるとホイールの摩耗が進行。
	ガイドローラーのフランジが摩耗している。フランジ幅の2/3以上が摩耗していると、ブレードがスリップしやすい。
	ブレードの溝と内径のエッジが摩耗している。研磨材切削時の水量が少なすぎたり駆動ホイールが摩耗しているとブレードがスリップ。

主要諸元	**K3600 MKII**
ブレード直径、mm/インチ	350/14"
切削深さ、mm/インチ	260/10"
最大切削速度、m/秒 / r/分	55/3000
最大モーター速度、r/分	17000
油圧モーター	ギアモーター（オープンセンターバルブ）
最大油圧、バール/ (psi)	150 / 2200
オイル流量、最小 - 最大、リットル/分	35-42
高さ、mm/インチ	410/16
長さ、mm/インチ	715/28
幅、mm/インチ	260/10
重量、ブレードを除く、kg	8.3
リングブレード重量、kg	0.8
油圧オイル仕様*	150 VG 32 (10W)**
オイル温度（運転時）、°C	60
消費水量、リットル/分	4
油圧接続継手	HTMA規制に基づく1/2' FF。（ネジ山 3/8'）

*環境保護規制に準拠した油圧オイルの使用をおすすめします。

**周囲温度が高い場合は、粘性の高いオイルをご使用ください。

騒音放射	
（注記1参照）	
音響出力レベル、実測dB(A)	110
音響出力レベル、保証L_{WA} dB(A)	111
騒音レベル	
ISO/DIS 15744およびISO/DIS 11201に準じて測定した使用者聴覚での等価音圧レベル、dB (A)	99
振動レベル	
ISO/DIS 8662-4に準じて測定したハンドルの振動	
前ハンドル、m/s^2	4.3
後ろハンドル、m/s^2	6.0

注記1：周囲に放出される騒音はEC指令2000/14/ECに適合し、音響出力(L_{WA})として計測されます。

油圧ホースの延長

油圧ホースを延長する際は、パワー損失に対応するため下表に従ってホース内径を大きくするようにしてください。

延長分、**m**	油圧ホース内側の直径、インチ
30 mまで	1/2
30-45	5/8
45-100	3/4

EC適合宣言

Partner Industrial Products（SE-433 81 Partille、Sweden、tel: +46-31-949000）は、2002年およびそれ以降（製造年は製品番号とともに銘板に明記）のパワーカッター**Partner K3600**が評議会指令の要求に適合することを、単独責任のもとで宣言します。

1998年6月22日付「機械類に関する」**98/37/EC**、付録IIA。

2000年5月8日付「環境の騒音放射に関する」**2000/14/EC**。

次の基準にも適合：**ISO/DIS 15744, ISO/DIS 11201**。

SMP Svensk Maskinprovning AB（スウェーデン機械テスト株） Fyrisborgsgatan 3、SE-754 50 Uppsala、Swedenは、Husqvarna AB（ハスクバーナ株）のため任意のタイプ認定を行ないました。

認定書番号：**01/169/010** – K3600 MKII。

2002年1月3日、Partille（パルティレ）にて

Ove Donnerdal

開発マネージャー、Ove Donnerdal（オーベ・ドンネルダール）